

第4回 那須塩原駅周辺まちづくり協議体 会議要旨

○日時 令和7年7月3日（木）15:00～17:00

○場所 厚崎公民館（栃木県那須塩原市上厚崎500-1）

○出席者 協議体メンバー 13名（うちオンライン2名）
オブザーバー 9名（うちオンライン1名）

○次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議事項
 - （1）協議体レポートについて
 - （2）持続可能なまちづくりに向けて
 - ①エリアプラットフォームについて
 - ②持続可能なまちづくりに向けて一事例紹介ー
 - ③中長期的な進め方
4. その他
5. 閉会

○配付資料 次第

- 【資料1】協議体レポートについて
- 【資料2】持続的なまちづくりに向けて
- 【参考1】協議体レポート（案）
- 【参考2】第4回那須塩原駅周辺まちづくり協議体名簿

○協議体当日の様子



尾崎氏（ネイバース株式会社）による事例紹介の様子



質疑応答・意見交換の様子

○会議要旨

3. 協議事項

(1) 協議体レポートについて

- 【資料1】にもとづき、これまでのまちづくり協議体及び協議体WGでの議論を取りまとめた協議体レポートの概要について事務局から説明を行った。
- 今後は7/16(水)に吉成座長から市長へ協議体レポートの報告を行い、その後HP等にて公開するスケジュールの共有を図った。

(2) 持続可能なまちづくりに向けて

- 【資料2】に基づき那須塩原駅周辺の持続的なまちづくりを目指し、まちづくりに関して議論・調整を行う場としてエリアプラットフォーム(以下、エリプラとする)を構築する方針案を示した。
- エリプラ構築の事例として、尾崎氏(ネイバース株式会社)を講師に迎え、事務局として運営に携わっている山梨県甲府市の「[甲府まちなかエリアプラットフォーム](#)」の取り組みを紹介していただき、その後質疑応答・意見交換を行った。

<甲府まちなかエリアプラットフォームに関する質疑応答>※敬称略

- エリプラを運営する主体(プレイヤー)を探すのに相当な手間がかかっているように見えるが、プレイヤーはどのように集めたのか。【協議体】
→どのようなプレイヤーに入ってもらうかは重要なので、プレイヤー探しには惜しみなく手間をかけた。まずは市職員の知り合いの中で“おもしろい人”を紹介していただき、そこから数珠つなぎに人を紹介してもらい、一人ずつ話を伺って徐々に人を集めた。【尾崎】
- 「[甲府まちなか未来ビジョン2025](#)」では実現したい状態を“地元の人がHAPPYであること”とし、観光客ではなく地元の人をターゲットにしているとのことだが、観光は全く意識しないのか?【協議体】
→もちろん甲府市や観光協会などは観光施策も行っている。エリプラとしては地元も観光客もターゲットにすると対象が広すぎるので絞った。エリプラを立ち上げた最初の4~5年間で目に見える成果/まちの変化を出したかったため、ターゲットや取り組むプロジェクト(社会実験など)の対象エリアを絞り込んでいる。将来的には対象エリアを拡げ、対象者に観光客も含めることも視野には入れている。【尾崎】
- エリプラを立ち上げてから4年後の令和8年度に組織としての自走化を目指すとのことだが、自走化するための期間としては短いように感じた。4年間の根拠は何か?【協議体】
→市の予算措置および補助金の交付の期間が根拠の1つである。社会実験で有意義な検証を行うためには、もう1年期間を伸ばしたいところだが、プレイヤーが適度な緊張感をもちながら活動する期間としては適切ではないかと感じている。【尾崎】

＜那須塩原駅周辺に関する意見交換＞※敬称略

- 那須塩原市は車で移動することがメインの土地。賑わいが無い今の那須塩原駅周辺において、何かから手を打つとよいと思われるか。【協議体】
→那須塩原駅利用者は市内よりも市外の人が多い印象がある。市外から来た人が足を止めるような場所をつくるとともに、市内の人にとっては消費活動を伴わずとも過ごせる、誰もが行ってみようと思える場所をつくるのが大事なかもしれない。【尾崎】

文責：那須塩原駅周辺整備室